

暑さでの認知機能の低下

脳波実験で初証明

奈女大

冷やしても、しばらくとも判明。また、高齢反応は小さいままで、者や子どもは、より低すぐには回復しない。この温度でも低下を招く

可能性があるという。柴崎准教授は「熱中症の初期症状時に水をかぶって気持ち良くなつても、体温を通常の状態にまで十分に下げないと判断力が低下したままなので、事故などへの注意が必要」と強調。また中田准教授は「今後研究を進めて、有効な体温調節方法や水分補給の仕方などを確立したい。2020

奈良女子大学研究院生活環境科学系の柴崎学准教授(環境生理学)と中田大貴准教授(神経科学)は10日、暑い環境の中にあると脳の認知機能が低下することを、脳波を使った実験で証明したと発表した。集中力低下など熱中症の初期症状での脳内の変化を科学的に証明したのは初めて。今後、熱中症の予防や対処法への活用が期待される。研究成果は4月13日付の米国・生理学雑誌の電子版に掲載された。

熱中症対策に活用も

柴崎准教授らは、聴覚や視覚などの感覚刺激から約300ミリ秒(0・3秒)後に出る特殊な脳波「P300成分」を使って実験。



暑さと脳の認知機能低下の関係についての研究を発表する柴崎准教授(右)と中田准教授=10日、奈良市北魚屋東町の奈良女子大学

20歳代の男性13人にチューブを通して外部から水を流せる「水循環スーツ」を着させて体を温め、音刺激に対する反応を見た。実験の結果、50度の水を流し続け体温が2度上昇した時点で計測したとき、P300成分の反応が通常よりも15%程度小さくなった。熱中症の初期症状時には、脳の判断力が低下することが証明された。その後冷たい水を

大立山まつり

来年1月25日開幕

実行委 事業計画

「小立山」を検討

県冬季誘客イベント「大立山まつり」実行委員会(会長・荒井正吾知事、26人)は11日、奈良市春日野町のホテルリガレ春日野で開かれ、第2回「奈良大立山まつり」の事業計画などを決めた。あいさつで荒井知事は「第2回も渾身(こんしん)の気持ちを入れて実演・実行させていきたい」と述べ、初回で指摘された寒さ対策や会場の暗さ、交通アク

セス、演出面などの課題を踏まえて大幅な「バージョンアップ」に意欲を示した。実行

委には奈良新聞社の甘利治夫代表取締役も出席した。

第2回「大立山まつり」の事業計画などを決めた実行委員会=11日、奈良市春日野町のホテルリガレ春日野



第2回「大立山まつり」の事業計画などを決めた実行委員会=11日、奈良市春日野町のホテルリガレ春日野

事業計画によると、会場は初回と同じ奈良市の平城宮跡・大極殿院周辺。開催期間も初回と同じ5日間で、次回は平成29年1月25〜29日(初回)今年1月29日〜2月2日)と決めた。実施内容も基本的な枠組みは初回を踏襲。4基の大立山巡行や県内市町村の伝統行事の披露、市町村の屋

すべての人に心伝わる葬儀

葬儀一式車
葬儀台車

総合葬祭式場 **天礼会館**
天理市川原城町767 ☎0743-63-1187
(株)天理葬儀社
天理市川原城町908 ☎0743-62-1187

総合葬祭式場 **天礼社大和会館**
奈良市大安寺西3丁目183-1 ☎0742-30-1187
(株)天礼社
西大寺店/奈良市蓮大寺町2-302 ☎0742-43-0008
学園前店/奈良市学園北1-3-4 ☎0742-48-2000

年の東京五輪・パラリンピックに間に合わせ」と期待した。